

上部消化管内視鏡検査同意書

患者氏名

以下の通り説明いたしました。

生年月日

性別

貴院名

年齢

説明医師

1. 病名、症状 ☐ 健診で異常 ☐ 腹痛 ☐ 食欲不振 ☐ 胸やけ・むかつき

☐ 胃痙攣交換

☐ その他()

検査予定日

2. 検査・手術の名称・内容

☐ 上部消化管内視鏡検査(経口)

☐ 上部消化管内視鏡検査(経鼻)

☐ その他()

この検査は、口あるいは鼻から内視鏡を挿入して食道・胃・十二指腸の一部を直接観察し、炎症やポリープ、腫瘍など診断する検査です。バリウム検査(胃透視検査)と違い、病変部を直接目でみて、組織の採取(生検)等もできる利点があります。また、経口内視鏡では止血術を初めとした内視鏡的手術を目的とすることもあります。

検査中は胃の中に空気を入れながら進んでいきますので少しお腹が張ってきます。

経鼻内視鏡の場合、個人差はありますが内視鏡挿入に伴い鼻腔に軽度の痛みを感じる場合があります。

検査をした結果、何らかの病変が疑われた場合は、色素の散布や生検、ピロリ菌の検査等を行なうことがあります。また、必要に応じて、止血処置などの治療的処置を行なうことがあります。

3. 合併症とその頻度

内視鏡検査は基本的に安全な検査ですが、稀に偶発症がみられることがあります。

前処置の麻酔や鎮静剤による副作用の発生も稀ですが報告があります(0.00009%)。鎮静剤を使用した場合は検査の後、院内で2時間以上休んでいただきます。検査当日の自動車の運転は避けてください。

偶発症の内訳として出血、鼻出血、血管迷走神経反射[徐脈、冷感、低血圧]や不整脈、血圧の変動などがあり、その他にも非常に稀ですが消化管穿孔(穴があくこと)、ショック(血圧低下)などが起こることがあります。

特に消化管出血を起こしている方などで、治療・内視鏡的手術を目的として内視鏡検査を行なう場合には、検査中に急激なバイタルサイン(血圧や意識の状態)の変動がおこることがありえます。

万が一、検査に伴い何らかの偶発症が発生した場合には、速やかに最善の処置・治療を行います。

複数種の抗血小板剤・抗凝固剤を服用している方は、生検などの処置をする場合、出血予防の為に検査の前後の一定期間、それらの薬剤の服用を中止していただくことがあります。服薬中止することにより稀に血栓塞栓症等の疾患を生じる可能性がありますので、服薬中止してよいかどうかはお薬を処方されている主治医の先生にもご相談ください。

私は上記のことについて医師より説明を受けました。

その内容について、

☐ 理解しました。納得した上で同意します。

☐ 理解しましたが、同意しません。

☐ 理解できませんので、同意しません。

____年____月____日 患者様氏名

代理人(自署)

(未成年、判断能力不十分の状態にある場合)

続柄